

製品ラインナップ

スリープバスター
HM-1 休息トリアージュ
型番：0068J0000

ドライブリズムマスター
(詳細警告・覚醒誘導タイプ)
型番：0068G0000

スリープバスター
(シンプルタイプ)
型番：0068F0000

※HM-1 休息トリアージュ、詳細警告・覚醒誘導タイプ、シンプルタイプへの変更は、アプリの書換え（有償）で対応可能です。

オプションソフトウェア

ヒュータコVer2.0（専用解析ソフト） 型番：0069C0000

※ソフトウェアのセットアップにつきましては、下記システム要件をご確認いただき、お客様にてお願いいたします。

製品仕様

コントローラー仕様

項目	内容
使用電源	DC5V
消費電力	2.2W
動作温度範囲	-20℃～+70℃
外形寸法	幅91×高さ119×厚み24mm
質量	155g
データ出力	USB mini-Bコネクタ (出力には別売の専用ソフトが必要です)

ヒューズ用電源(DCアダプター)仕様

項目	内容
使用電源	DC12/24V
消費電力	DC5V 0.5A
動作温度範囲	-30℃～+75℃
外形寸法	幅62.5×高さ25×厚み40mm
質量	115g (ケーブルの長さにより変動します)

センサーパッド仕様

項目	内容
サイズ	幅：375mm/長さ：685mm
材質	主材：ポリエステル 縁材：ポリプロピレン
動作温度範囲	-20～+60℃
保存温度範囲	-40～+85℃

専用解析ソフト ヒュータコ システム要件

項目	内容
対応OS	Windows 10、8.1、8、7 SP1以降、
CPU	1.6GHz以上（推奨）
メモリ	2GB（推奨）
ディスプレイ	1440×900以上（推奨）
HDD空き容量	10GB以上（必須）

オプション

シガー電源
品番：RD-1JD1-520

100V電源
品番：UN110-0520

コントローラーカバー
品番：RD-1JD1-165

取付具（据付具）
品番：TY82T17
(VP-82、VP-T17)

! 安全に関するご注意

※状態の特定は運転中のヒューマンエラーの発生の可能性を示唆するものであり、体調全体を示しているものではありません。
※ユニークなアニメーションや音声でドライバーに刺激を与えますが、体調の回復や覚醒の効果が得られるとは限りません。

JUKI JUKI 株式会社 システム機器室

e-mail：sleepbuster@juki.co.jp

HP：http://www.juki.co.jp/

東京 〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1
TEL：042-357-2284 FAX：042-357-2325

大阪 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-3-1-500
大阪駅前第一ビル 5F

TEL：06-4796-6628 FAX：06-4796-6529

開発・製造：株式会社デルタツール

1702-E03

※スリープバスター、ヒュータコは、株式会社デルタツール登録商標です。
※無断複写・複製・転載を禁じます。仕様は予告なく変更することがあります。

運転中の体調に起因する事故リスク低減装置
疲労度合、入眠予兆、集中力・判断力低下状態 警告機能付き

スリープバスター

0068F0000

Mu-Len

運転中の疲労度測定システム
体調測定・状態通知・体調データ蓄積装置

体調ナビ

国交省補助制度対象機種



安全な運転ができなくなる前に警告
運転の交代、休憩をおすすめ。

Sleep Buster®

センサーが眠気の進行や集中力の低下など
体調の変化をモニタリング。
安全な運行、交通事故の防止対策に。



シートに座るだけで体調を推定。 事故を起こしそうな状態を事前に検知して ドライバーに警告する「体調ナビ」。



非拘束センサー

脈動による音や振動を検知します。
センサーから得られる生体信号は、独自の特許技術により、
医療目的の計測機器と相関性の高い測定結果を示します。

ただ座るだけ。
車の運転を妨げません。

測定前の面倒な調整は必要ありません。
ダウンジャケットのような厚着をしていても測定可能です。
測定の精度は、学会で認められた高い信頼性があります。



多機能コントローラー

多彩な画面と音声で体調の変化をお知らせします。
センサーから検知した心臓・大動脈の活動の周期情報から
疲労度、集中度、眠気を、わかりやすい画面や音声でお知らせします。



キャラクターモード



体調MAP



履歴グラフ



多彩な画面

こんな
事業者様に！

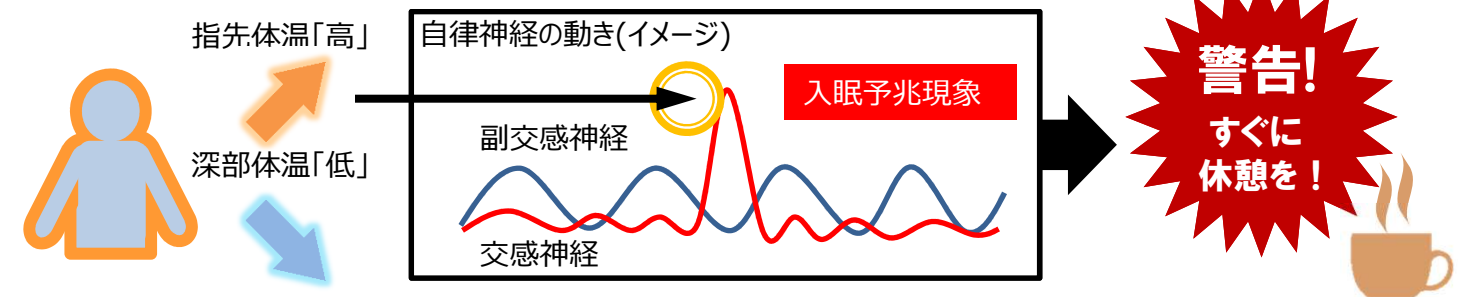
安全な運行を最重視し、
ドライバーの無事故や無違反を徹底したい事業者様。

「入眠予兆現象」は自覚がありません。
だから、眠気に太刀打ちできなくなる前に警告します。

「入眠予兆現象」とは、これから本格的に眠りに入ろうとしている状態です。眠りに入るとき、人間の体は指先の体温が高くなり、体の深部の体温は低くなります。このとき、副交感神経が優位の状態で交換神経を強く働かせます。本格的に眠りに入る10～15分前に入眠予兆現象が生じます。しかし、ドライバーには自覚がありません。

スリープバスターは、入眠予兆現象を検知して警告します（特許を取得）。したがって、警告が出たときにすぐに休憩、あるいは運転を交代することで、本格的に居眠りに入る前に、運転を停止させることができます。

なお、入眠予兆現象を生じて、体力があれば必ず眠るとは限りません。一方、体力がなければ、より早い時間に眠りに入る場合もあります。当機で、体が眠ろうとしている体勢に入っていることを知ることが大切なのです。



眠気だけでなく、「一瞬の気の緩み」も見逃しません。
過去に事故を起こした状態と同じ状態を警告します。

スリープバスターを搭載していたにもかかわらず、残念ながら事故を発生させてしまった例があります。

その原因は眠気とは無関係の「一瞬の気の緩み」でした。

そこで、スリープバスターでは、座席のセンサーから検知した生体信号を解析し、過去に事故が起きた状態、事故を未然に回避した状態と97.5%以上一致したときにも警告するようにしました。一瞬、気が緩んだ状態を特定し、過去と同じ過ちを繰り返さないように運行の安全性を高めます。

怖い顔で「喝ッ！」を入れるのは
ドライバーが事故を起こさないための
「優しさ」です。



Sleep Buster®

体調ナビ